



令和4年度 果樹情報 第20号

(令和5年3月23日)

果樹の発芽及び開花予測、防霜対策と病虫害防除対策
福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (3月中旬、果樹研究所)

平均気温は、3半旬が8.3℃で平年より3.6℃高く、4半旬が7.6℃で平年より2.0℃高く経過しました。この期間の降水量は24.5mmで平年比102%と平年並でした。日照時間は、75.6時間で平年比115%と多くなりました。

2 発育状況 (3月22日現在、果樹研究所)

発芽は、もも「あかつき」が3月16日で平年より8日、昨年より11日早く、なし「幸水」が3月22日で平年より10日、昨年より10日早く、りんご「ふじ」が3月17日で平年より10日、昨年より13日早くなりました(表1)。

表1 各樹種(品種)の発芽および展葉状況

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月16日	3月24日	3月27日	—	—	—
	ゆうぞら	3月17日	3月25日	3月27日	—	—	—
なし	幸水	3月22日	4月1日	4月1日	未	4月14日	4月9日
	豊水	3月20日	3月30日	3月29日	未	4月10日	4月6日
りんご	つがる	3月17日	3月26日	3月29日	未	4月8日	4月11日
	ふじ	3月17日	3月27日	3月30日	未	4月7日	3月30日

注1) 平年は1991~2020年の平均値。

注2) もも「あかつき」の調査樹は2022年より変更しています。

3 発育予測 (3月22日現在、果樹研究所)

仙台管区气象台が3月23日に発表した1か月予報(3月25日~4月24日)では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます。

●東北地方1か月予報(仙台管区气象台 令和5年3月23日発表)

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。週別の気温は、1週目(3/25~3/31)は、高い確率80%です。2週目(4/1~4/7)は、高い確率80%です。

今後の気温が平年より2℃高く経過した場合は、果樹の開花はもも「あかつき」が4月5日頃で平年より8日早く、なし「幸水」が4月13日頃で平年より7日早く、りんご「ふじ」が4月18日頃で平年より8日早いと予測されます(表2)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により大きく変動することがあるため注意が必要です。

表2 開花予測日 [予測方法: 発育速度(DVR)モデルによる発育予測]

	開花日		今後の気温経過			2週間予測*
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
あかつき	4月10日	4月13日	4月8日	4月5日	4月11日	4月4日
幸水	4月14日	4月20日	4月18日	4月13日	4月22日	4月14日
ふじ	4月22日	4月26日	4月23日	4月18日	4月28日	4月20日

*2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値

注1) 開花日の平年値は、1991~2020年の平均

注2) 発育予測は2~3日の誤差を生じる場合があります。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

耐凍性は生育が進むにつれて低下し、開花期から幼果期にかけて最も弱く、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

今後の気温が平年より2℃高く経過した場合には、もも、なし、りんごの開花は平年より7～8日早まる見込みです。生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、農業振興課ホームページの技術資料「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和5年3月15日）」を参照してください。
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyou>

事前対策としては、防霜資材を準備するとともに、地温の上昇を図るため下草は5cm程度に刈り込みましょう。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。特に、花粉がない若しくは少ない品種においては、注意が必要です。

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

5 病虫害防除上の留意点

発芽が平年より早まっているため、防除時期が遅れないように留意しましょう。また、耕種的防除を徹底し発生密度の低減を図りましょう。

(1) りんご

リンゴ腐らん病の伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗りましょう。なお、伐採した被害枝幹や削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分するとともに、展葉初期の防除を徹底しましょう。

前年にリンゴ黒星病の発生が見られた場合は、展葉初期の防除を徹底しましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園では、発芽前の防除を徹底しましょう。なお、発芽前までに防除を実施できなかった場合には、発芽後1週間までに行いましょう。

(2) もも・ネクタリン

モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生予測モデルによると今春の発生は平年よりやや少ないと予測されていますが、昨年9月の新梢葉での発生ほ場割合は平年並で、越冬量は平年並と予報されています（3月9日付け令和4年度病虫害発生予察情報・発生予報第15号）。春型枝病斑は発芽10日後ごろから発生が見られる場合があるため、**病斑の早期発見とせん除及び開花直前の防除を徹底し、春型枝病斑からの感染防止を図りましょう。**なお、開花後の薬剤散布は葉に薬害を生じることがあるので、防除時期が遅れないように十分注意しましょう。

ハマキムシ類の発生が多い場合は、開花前に防除を実施しましょう。ただし、有機リン剤等の訪花昆虫に影響がある薬剤を使用する場合は使用時期に注意しましょう。

(3) なし

果樹研究所におけるナシ黒星病罹病落葉からの子のう胞子の初飛散は、まだ確認されていませんが、これまでの気象経過から例年より早まると見込まれます。園内や周囲の落葉は伝染源となるおそれがあるため、**落葉処理を実施していない場合には早急に行いましょう。**薬剤防除は発芽1週間後を目安に行い、初期感染を防止しましょう。

ナシ黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、見つけしだい取り除きましょう。

(4) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。晩腐病に対しては、発芽前の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多く見られた園地では、発芽前に防除を実施しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行:福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>